

Title	南寧平話字音記略
Sub Title	The pronunciation of Chinese characters in Ping dialect in Nanning
Author	辻, 伸久(Tsuji, Nobuhisa)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	1994
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.65, (1994. 3) ,p.465(18)- 482(1)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	檜谷昭彦, 佐藤一郎両教授退任記念論文集
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-00650001-0482

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

南寧平話字音記略

辻 伸 久

0. 背景：広西の諸言語

「広西平話」は、中華人民共和国・広西壮族自治区で話されている漢語系の方言群であり、その使用人口は200万強と推定される。ここに言う「漢語」は中国語における用語に由来するもので、漢民族の話す言語・方言の総称、すなわち広義の中国語一般を指す。中国政府1982年の国勢調査（人口普查）に拠ると、広西の人口36,420,960人のうち漢民族が2,248万人強（62%）を占めており、残り1,393万人強（38%）が「少数民族」に分類されている。

本節以下では、主に李栄、熊正輝1987および張均如1982の記述に拠り、平話をとりまく言語環境を略述しておこう。なお、言語・方言の使用者推定人口については、すべて李、熊1987に拠る。

0.1 漢語方言（地図1参照）

広西における主要漢語方言は、平話に加えて「白話」と呼ばれる粵語方言、客家語、西南官話（北方語）などが、第一（家庭・生活）言語として話されている。また、現在の主要都市においては、社会・行政面の「普通話」（標準中国語）、及び経済・実務面の標準広東語が浸透している。

粵語は広西内最大の漢語であり、同自治区内使用者人口は約1,200万人である。なお、中国全体の粵語使用人口は、4,021万人と推定されている。広西粵語の大部分は、同自治区の南東部、広東省よりの地域に分布している。すなわち、広東省西部の大河「西江」の上流は広西にはいり濤江と名を変

えるが、その濠江流域、広東省境の主要都市梧州から桂平に至る百数キロメートルを東西の横幅として、南北に「勾漏片」とよばれる粵語下位方言群が広い分布をなしている。その南に隣接し、トンキン湾（北部湾）よりの地域では、同じく下位方言群である「欽廉片」が話されている。第三に、濠江の上流邕江沿いの自治区首府である南寧、および、その更に上流で「右江」と「左江」分岐する両河川の流域では、「邕濠片」の方言群が散在している。

客家語の使用者人口は、350万人強。その分布特徴は、広域に連続した方言地帯をもたず、華南各地に分散している点にあるが、広西もその例にもれず、「新民話」「僱話」「麻介話」等の名称で広く散在している。なお、客家の人々の広西への移住は比較的後年であり、中国全体の客家の人口は、4,500万人と推定されている。

第三の西南官話は、使用者人口500万人強。自治区の北半部、湖南から貴州、雲南の州境に至る地域で東西に広く話されているが、桂林とその南の柳州を結ぶ一帯に分布の集中を見る。その他では、都市や町を結ぶ河川沿いに方言地帯を形成しているが、その多くは地理的に孤立しており、広域に連続した分布は見られない。

0.2 少数民族言語

広西の非漢「少数」民族1,393万人強のうち、88.5%は1,233万人を数える北タイ語系の壮族（チワンまたはチュワン、国内総人口13,378,162）であり、壮語諸方言を話している。壮族は、トンキン湾沿いの地域を除く広西の西部で広範に居住し、同自治区人口の34%を占める。残り162万人（同自治区人口の4%）が文字どおりの少数諸民族であり、苗（ミャオ）および苗系の布努や瑤（ヤオ）系の勉（ミエン）、およびタイ系の侗（トン）、水（スイ）、ム佬（ムーラオ）、毛南（マオナン）、などの諸民族が、それぞれの言語をもつ。これら諸民族の居住地は、全体として西南官話地区と同じく広西北部にあるが、都市や町をさけた山地の小コミュニティとして散在している。

以上、多言語・多方言使用が普遍的な華南においては、民族別人口や漢語方言別人口を言語・方言使用者数に当てはめるわけにはいかない。しかし、その民族・方言グループの人口および地理分布は、広西平話の置かれた言語・社会・文化環境に関する何等かの参考となろう。

0.3 平話（地図2参照）

広西の平話は、言語特徴の内部一致が見られない方言群と言われている。以下に述べるように広西平話には、少なくとも歴史音韻面（漢字音の史的音韻対応）から明らかに別系統と見られる、「南北」二類の口語群が存在する。

0.3.1 言語特徴による分類

平話と総称される口語群は、歴史音韻や語彙、文法などの特徴における一定の共通項によって同定される言語・方言ではないようだ。もちろん、漢語のいかなる方言群についても、その分類を判定する「必要にして十分な」言語的条件を特定できるのは、もし不可能でないとすれば極めて稀である。しかしながら、例えば平話に隣接して話されている粵語や客家語の内部において、それぞれの諸方言を「粵語」または「客家語」と同定するやや緩やかな分類基準は「研究作業上」存在している。ここに言う「一定の共通項」とは、より緩やかな条件であるが、それぞれの諸方言間に見られる程度の共通性を指す。更に、その方言名称についても、自治区北部の「平話」、融水や柳江地帯の「百姓話」、靈川や永福の「土話」、左江・右江流域の「蔗園話」など各地で異なっている。

しかしながら、どの地域の話し手も「平話」という総称は否定はしないとの報告があるので、歴史、社会または文化面で、各地話し手の間に何等かの同類意識（identity）が存在するものと考えられる。

0.3.2 平話の地理分布

広西平話は、交通要路沿いに集中して分布しており、南部平話（「南片」）

と北部平話(「北片」)に大別されている。まず北部平話では、主に桂南(自治区南部)の邕江沿いの邕寧、横県およびその北の平果、上林、馬山の各県、南寧市郊外、左江・右江両河川沿いの幾つかの市町村などがある。また、柳江沿いの柳江(町名)、柳城、柳州市、およびその上流である融水域の融安、融水(町名)、羅城では、地理的に桂北(自治区北部)に位置するが、これら平話は南部型に属す。

北部平話は、桂江上流から北へ伸びる南北の線を軸として、その東西に別れた分布域をなしている。まず、東には靈川、桂林市郊外、臨桂、永福を中心とした地帯であり、北の龍勝から南の鹿寨、西の寿城から東の朔陽と、北部の主体とも言うべき広がりをなしている。次に桂江の軸の西側では、源頭、鐘山、賀県、富川、樟木などが北部平話第二の地帯をなしている。なお、具体的数字は不明だが、南部平話の使用者人口は、北部のそれよりもはるかに多い。

平話諸方言の共通点として李、熊1987は、中古全濁音声母と現在の無気破裂・破擦音との対応をあげているが、この字音特徴は粵語の「勾漏片」方言群にもみられるものである。前述のごとく、平話は内部差の大きい方言群であるが、とりわけ北部と南部との相違は顕著である。南北それぞれの歴史音韻特徴は、以下のようにまとめられる。

- 北部平話： ① 古知組声母の一部が端組に合流している(すなわち、破擦音ではなく、破裂音 t-, t'-に対応)。
- ② 韻尾 -m, -n がなく、中古鼻音韻尾は消失するか-ŋ尾一類に合流している。
- ③ 声調は、陰平、陽平、上、陰去、陽去、入声、六類のものが多い。

- 南部平話： ① 古心母が無声側面摩擦音 [l] に対応する。
- ② 中古の韻尾に対応して、-m, -n, -ŋ/-p, -t, -k を保存している。
- ③ 声調が一般に8類あり、中古声母の「清濁」(無声・有声)を条件として声調「陰陽」の区別を保持している。

1. 南寧平話の漢字音系

本稿で記述する平話の南寧市（北緯22.49度，東経108.21度）は，広西壮族自治区の首府であり，その人口は90.1万人強。同市は，秦朝以来1,600年の歴史をもつ行政中心として，広西の歴史を通じ経済・政治の一中心をなしてきた。西江水系上流邕江の北岸に位置する同市は，水路による交通の利に恵まれてきた。すなわち，邕江の下流は，東へ，広西・広東境の要衝である梧州をへて西江に合流し，広州を含む珠江デルタ地区の粵語地域につながる。一方，西江水系の上流は，東へ雲南にいたる右江，ヴェトナムにいたる左江に分岐する。

言語使用環境から見た南寧市は，中国における多言語・多方言使用地域の典型と言えよう。すなわち，主要生活言語である壮（チュワン）族の壮語，中国語粵語系の「白話」，および平話の三者が日常的に話されており，人口の大多数をしめる壮族の多くは，壮語および中国語方言を話す二重（多重）言語使用者である。

筆者は，かつて辻伸久1980におけるデータの一部として，南寧平話漢字音の極めて簡略な記録を提示した。しかし，その後再調査の機会にめぐまれ，またデータの訂正も必要となったので，以下に，南寧平話漢字音を略述する。なお，例として提示する漢字の意味については，日本語における一般的意味領域と異なる場合，および多義のため意味的特定を必要とする場合のみに日本語訳を付加し，その以外では省略した。

1.1 声母（音節頭音）

南寧平話の声母（音節頭子音）を下図に表示する。なお，無声有気音系列の声母 [ph, th, tʰ, kh] における [h] は，有気音を表示する付加記号として用いており，したがって，これら4声母は子音 [h] を含む複合子音ではなく，それぞれ単一の子音を表記する。

南寧平話の声母

		唇音	齒音	軟口蓋音	硬口蓋音
無 声	無 氣	p	t	tʃ	k
	有 氣	ph	th	tʃh	kh
	摩 擦	Φ(pΦ)	θ	ʃ	h
有 声	鼻 音	m	n	ŋ	ŋ
	側 面 音 わ た り	ũ (β)	l	ĩ	

筆者の調査時には、低声調音節の破裂・破擦・摩擦音声母において、例えば [tʃhən21] 陳 (姓) のごとく、「ささやき音 (murmur)」[^h] を音声的に観察しかつ記録した。しかし、南寧平話の場合これら音声特徴は音韻的機能をもたないので、自由異音とみなし以下の記述では省略する。

その他の音声特徴としては、両唇摩擦音[Φ]が破擦音化することがある。例えば：[Φu: 22] ~ [pΦũ: 22] 「付」。また、唇わたり音 [ũ] は、摩擦音化した異音をもつ：[ũa: 24] ~ [βa: 24] 「話」。各声母の例：

pa: 44	把 “つかむ”	pa: ŋ 52	幫 “助ける”
phu: 52	舖 “店”	pha: 55	怕 “おそれる”
Φu: 24	舞	Φu:ĩ 21	肥 “ふとった”
ma: 24	馬	mu:ĩ 44	妹
βu: t 2	活	ũan 21	温 “(人)を探す, 尋ねる”
to: 52	多	ti:ũ 52	條 (数量詞)
thu: 44	土	thlĩ 52	梯 “はしご”
nłĩ 21	泥	nɔ:ŋ 21	農
θłm 52	三	θi:n 52	先
lu: 22	路	lłĩ 24	禮 “礼儀”
tʃa: 21	茶	tʃəi:k 4	織 “織る”
tʃha:ĩ 55	菜 “料理”	tʃha:p 4	挿
ʃy: 55	樹	ʃa:ŋ 21	牀 “ベッド”
ĩłũ 24	友	ĩɛ:ŋ 21	羊

ŋe ʌm 24	飲	ŋe ʌt 24	日 “ひにち”
ka :ŋ 52	江	ky : 21	佢 “あの人” (第三人称単数 代名詞)
khɔ:ŋ 44	孔	kha : k 4	確
ha : n 22	汗	hy : 55	去 “行く”
ŋa : n 22	岸	ŋu : 24	五

1.2 母音

南寧平話の母音は下表の如くだが、その記述は次の「韻母(介母, 母音, 音節末尾音の組合わせ)」の項で、まとめておこなう。

南寧平話の母音

	前舌	中舌	奥舌
狭	i: ė i: (円唇)	y: (円唇)	u:
半狭	e		o
半広	ɛ: ė ɛ:	ʌ	ɔ:
広		a:	

なお、[ɛ:] と [i:] の前には、[eɛ:], [ėi:] のように中舌のわたり音が現れることがあるが、音韻的判別機能をもたない異音とみられる。各母音を含む音節の例を以下に挙げる：

i:	ki: 21	奇	θi: t 4	雪 “氷, 雪”
	ʃai: k	色	tʃai: ŋ 44	蒸 “(食物を) むす”
y:	ŋe y: 24	女	tʃy: 22	住 “すむ”
e	θe 44	寫 “書く”	tʃe 52	遮 “さえぎる”
ɛ:	ke:k 44	脚	tʃɛ: ŋ 21	牆 “壁, へい”

	θæ:ŋ 52	星	thæ: k	踢 “蹴る”
Λ	ʃlĩ 22	事	ĩlɔt 4	一 “1”
a:	ha:i 52	開	ta:ŋ 21	塘 “池”
u:	Φu: 55	富	ʃu:i 44	水
o	koŋ 44	廣	kok 4	郭 (姓)
ɔ:	tɔ:ŋ 52	東	lɔ:k 24	六

1.3 韻音 (介母, 母音, 音節末尾音の組合せ)

南寧平話の音節末尾音は、典型的な粵語方言におけるように、鼻音の [m, n, ŋ] と、それに調音点に対応する閉鎖音の [p, t, k] とがそろっている。下図は、母音、介母(母音と声母の間にたつわり音)、および音節末尾音の組み合わせたる韻母をまとめたものである。

母音長・短(または緊・緩)の対立は部分的に存在するが、粵語一般のそれに比べると限られており、かつ体系性を欠く。すなわち、中舌広母音では、長(緊)母音 [a:] と短(緩)母音 [Λ] の対立が体系的であるものの、狭母音系の [i:], [u:], [y:] では長母音しか現れない。また、半狭・半広母音系では、前舌長母音の [ɛ:] が短母音 [e] が対立を見せないのに対し、奥舌の [ɔ:] は [o] と対立を示す。すなわち、[e] が開音節か音節末尾わり音 [w] の前にしか現れないが、[ɛ:] は音節末尾音 [k, ŋ] との組み合わせに限定される。これにたいして [o, ɔ:] の音節内分布は、限定されているものの、両者ともに音節末尾音 [k, ŋ] との組み合わせであられる。

南寧平話の韻母

a:	a:ĩ	a:ũ	a:m	a:p	a:n	a:t	a:ŋ	a:k
ũa:	ũa:ĩ				ũa:n	ũa:t	ũa:ŋ	ũa:k
	Δi	Δũ	Δm	Δp	Δn	Δt	Δŋ	Δk
	ũ Δĩ				ũΔn	ũΔt		
e		ẽũ					ε:ŋ	ε:k
							ə̌ ε:ŋ	ə̌ ε:k
i:		i:ũ	i:m	i:p	i:n	i:t	i:ŋ	i:k
ə̌i:							ə̌ i:ŋ	ə̌ i:k
u:	u:ĩ				u:n	u:t		
y:							oŋ	ok
							ɔ:ŋ	ɔ:k

1.4 声調

南寧平話の声調

	平	上	去	入	
陰	I	III	V	VII	
	52 	44 	55 	4 	
陽	II	IV	VI	VIII	IX
	21 	24 	22 	24 	2

声調は、平上去入および陰陽に分類される中古体系との対応が顕著である。中古陽入声は、音声的に [2] と上がり調の [24] に分かれる。しかし、[24]調の分布は、有声の頭子音をもつ音節、すなわちわたり音[ũ, ĩ], 鼻音 [m, n, n_e, ŋ] または側面音 [1] を声母とする音節のみに限られる。し

たがって、[2]調とは相補分布をなしているのので、音韻的には一類の声調とみなされる。なお、入声に対応する閉鎖音尾音節声調の調値は、粵語などにおけるように、短めである。したがって、入声の[24]は、陽上声に対応する[24]よりピッチの上昇が急である。

2. 中古漢語音系との対応

本節では、韻書および韻図から抽出された、中古漢語の音韻範疇を枠組みとして、南寧平話の漢字音に対照させる。

2.1 声 母

桂南平話諸方言一般におけるように、南寧平話漢字音の顕著な特徴は、古全濁声母（有声の破裂・破擦頭子音）が声調の条件にかかわらず無気は無声音に対応し、したがって元来無気無声であった古清音と合流している点にある。

*b-	>	p-	朋	pɔŋ	21	[陽平調]	別	pi:t
*d-	>	t-	條	ti̯	21	[陽平調]	頭	tɬü21
*g-	>	k-	奇	ki:	21	[陽平調]	枝	ki:24
*ɸ	>	tʃ-	廚	tʃy:	21	[陽平調]	住	tʃy:22

以下では、「唇舌牙齒喉」の五音分類に基づき、声母の史的対応例を提示する。

2.1.1 唇 音

幫	p	包	pa:ü 52	餅	pœ:ŋ 44
並	p	牌	pa:i̯ 21	白	pɛ:k 2
滂	ph	泡	pha:ü 52	拍	phe:k 4
明	m	苗	mi:i̯ 21	忙	ma:ŋ 21
微	m, ɸ	聞	ɸüɔŋ 21	問	mɔŋ 22
				霧	mu: 22
非, 敷, 奉	ɸ	付	ɸu: 55,	豐	ɸɔ:ŋ 52
		房	ɸüɔŋ 21 “部屋”		

2.1.2 舌頭音

端	t	低	tɿ̃ 44	地	ti: 22
定	t	題	tɿ̃ 21	第	tɿ̃ 22
透	th	聽	thæ:ŋ 44	桶	thɔ:ŋ 44
泥, 娘	n, n̥	南	na:m 21	女	n̥e y: 24
來	l	老	la:ũ 44	冷	lɛ:ŋ 24

2.1.3 齒頭音

精	tʃ	招	tʃhiũ 52	早	tʃa:ũ 24
從	tʃ	字	tʃi: 22	巢	tʃa:ũ 21
清	tʃh	清	tʃhæ:ŋ 52	草	tʃha:ũ 24
邪	tʃ, θ	寺	tʃi: 22	松	θɔ:ŋ 52
心	θ	笑	θi:ũ 22	新	θɿn 52

2.1.4 舌上音

知	tʃ	追	tʃu:i 52	朝	tʃi:ũ 52 “王朝”
澄	tʃ	廚 (陽平)	tʃy: 21	竹	tʃɔ:k 44
徹	tʃh	超	tʃhi:ũ 52		
		趁	tʃhɿn 55 (趁墟 “市場へ行く”)		

2.1.5 齒上音 (II等)

莊	tʃ	織	tʃəi:k 44	莊	tʃa:ŋ 52 “村” (または姓の一)
初	tʃh	參	ʃɿm 52	厠	tʃhi: 55
牀	ʃ	柴	ʃa:i 21	衫	ʃa:m 52 “シャツ”
疏	ʃ	生	ʃɛ:ŋ 21	食	ʃəi:k 2

2.1.6 正齒音 (III等)

照	tʃ	正	tʃæ:ŋ 44	粥	tʃɔ:k 4
---	----	---	----------	---	---------

穿	tʃh	春	tʃhʌn 52	尺	tʃhæ:k 44
神	ʃ	船	ʃi:n 21	舌	ʃi:t 2
審	ʃ	水	ʃu:ĩ 44	叔	ʃɔ:k 4
禪	ʃ	時	ʃi: 21		
		熟	ʃɔ:k 2		
			(食物が) よく煮えている, 生でない”		
日	ŋe	人	ŋe ʌn 21	熱	ŋei:t 24

2.1.7 牙 音

疑	ŋ, ŋe	午	ŋu: 24	玉	“(宝石の) 翡翠” ŋeɔ:k 24
見	k	幾	ki: 21	根	kʌn 52
群	k	橋	kiũ 21	舅	kʌũ 44
溪	kh, h	刻	khʌk 44	欠	him 55

2.1.8 喉 音

曉	h	希	hi: 52	虎	hu: 24
匣	h,ũ	限	ha:n 24	話	ũa: 22
影	o,ũ,ĩ	飲	ŋe ʌm 44	恩	ʌn 52
喻	o,ũ,ĩ	用	ĩɔ:ŋ 22	域	ũæε:k 24

2.2 韻 母

韻母の対応は、中古音韻韻図の「撰」十六類の分類を基本とし、各撰の「開・合」および「等呼（I等～IV等）」による分類をくわえた枠組により例を挙げる。

2.2.1 果 撰

開 I	我	ŋɔ: 24	大	ta:ĩ 22
開 III	茄	kε: 21 または ka 52	[両読] “茄子”	
合 I	坐	tʃu: 24	窩	ɔ: 52 “巢”
合 III	靴	ũe 21 “ブーツ”		

2.2.2 假 撮

開II	家 ka: 52	夏 ǎa: 22
開III	車 tʃhe 52	夜 ǎe 22
合II	花 ǎa: 52	瓜 kǎa: 52

2.2.3 遇 撮

合I	布 pu: 55	五 ŋu: 24
合III (魚)	猪 tʃhy: 52 “豚”	鋸 ky: 55
合III (虞)	父 Φu: 44	柱 tʃy: 24

2.2.4 蟹 撮

開I	戴 ta:ǎi 55	菜 tʃha:ǎi 55
開II	買 ma:ǎi 24	鞋 ha:ǎi 21“くつ”
開III	世 ʃi: 55	誓 ʃi: 22
開IV	米 mǎi 24	弟 tǎi 24
合I	妹 mu:ǎi 44	外 ǎa:ǎi 22
合II	話 ǎa: 55	怪 kǎa:ǎi 55
		“変な, 見慣れない”
合III	肺 Φu:ǎi 55	税 ʃu:ǎi 55
合IV	桂 kǎi 55	

2.2.5 止 撮

開III	皮 pi:21	碑 pǎi 52 “看板, 札, プレート”
	地 ti: 22	枝 ki: 44
	思 θi: 52	二 ni: 22
合III	跪 kǎi 24	毀 ǎi 44
	飛 Φu:ǎi 52	

	嘴 tʃu:i̇ 44	飛 Φu:i̇ 52
2.2.6 効 撮		
開 I	島 ta:ũ 44	草 tʃha:ũ 44
開 II	包 pa:ũ 52	咬 n̄a:ũ 24
開 III	橋 ki:ũ 21	笑 θi:ũ 55
開 IV	條 ti:ũ 21	料 li:ũ 22
2.2.7 流 撮		
開 I	頭 tΛũ 21	口 hΛũ 44
	母 mou̇ 24	,
開 III	富 Φu: 55	婦 Φu: 21
	柳 lΛũ 24	九 kΛũ 44
	廖 li:ũ 22 (姓)	
2.2.8 咸 撮		
開 I	南 na:m 21	三 θa:m 52
(覃・談)	塔 ta:p 4	敢 ka:m 44
	“ (車などに) 乗る ”	* 長母音は例外的
開 II	減 ka:m 44	挿 tʃha:p 4
開 III	檢 ni:m 22	接 tʃi:p 4
開 IV	甜 ti:m 21 “甘い”	添 t'i:m 52
2.2.9 深 撮		
開 III	心 θΛm 52	十 ʃΛp 4
2.2.10 山 撮		
開 I	擦 tʃha:t 4	辣 la:t 24
	干 (乾) ka:n 52	岸 ŋa:n 22
開 II	慢 ma:n 22	八 pa:t 4
開 III	線 θi:n 55	熱 ŋe:t 24
開 IV	千 tʃhi:n 52	結 ki:t 4

合 I	短	tu:n 55	活	u:t 2
合 II	關	kua:n 52	刮	kua:t 4
	川	tʃhi:n 52	說	ʃi:t 4
合 III	(元) 飯	fa:n 22	襪	ma:t 24
合 IV	玄	i:n 21	血	hi:t 4

2.2.11 臻 攝

開 I	根	kʌn 52	恩	ʌn 52
開 III	人	ne ʌn 21	筆	pʌt 4
	新	θʌn 52	必	pi:t 4
合 I	本	pu:n 44	門	mu:n 21
	困	kuʌn 55	卒	tʃʌt 4
合 III (諄)	春	tʃhʌn 52	律	lʌt 24
合 III (文)	分	fuʌn 52	運	ʊʌn 22

2.2.12 宕 攝

開 I	忙	ma:ŋ 21	各	ka:k 4
	湯	tha:ŋ 52	泊	pok 4
開 III	兩	le:ŋ 24	脚	ke:k 4
	香	he:ŋ 52	藥	ʃe:k 4
	壯	tʃa:ŋ 55	牀	ʃa:ŋ 21 “ベッド”
合 I	光	koŋ 52	郭	kok 4 (姓)
合 III	網	muoŋ 24	王	ʊoŋ 21 (姓)

2.2.13 江 攝

開 III	講	ka:ŋ 44	学	ha:k 2
-------	---	---------	---	--------

2.2.14 曾 攝

開 I	增	tʃʌŋ 52	黑	hʌk 4
開 III	蒸	tʃəi:ŋ 52	力	ləi:k 24

	繩	ʃəi:ŋ	52	色	ʃəi:k	2
合 I	国	kok	4	或	hok	2
合III	域	ũəɛ:k	2			

2.2.15 梗 攝

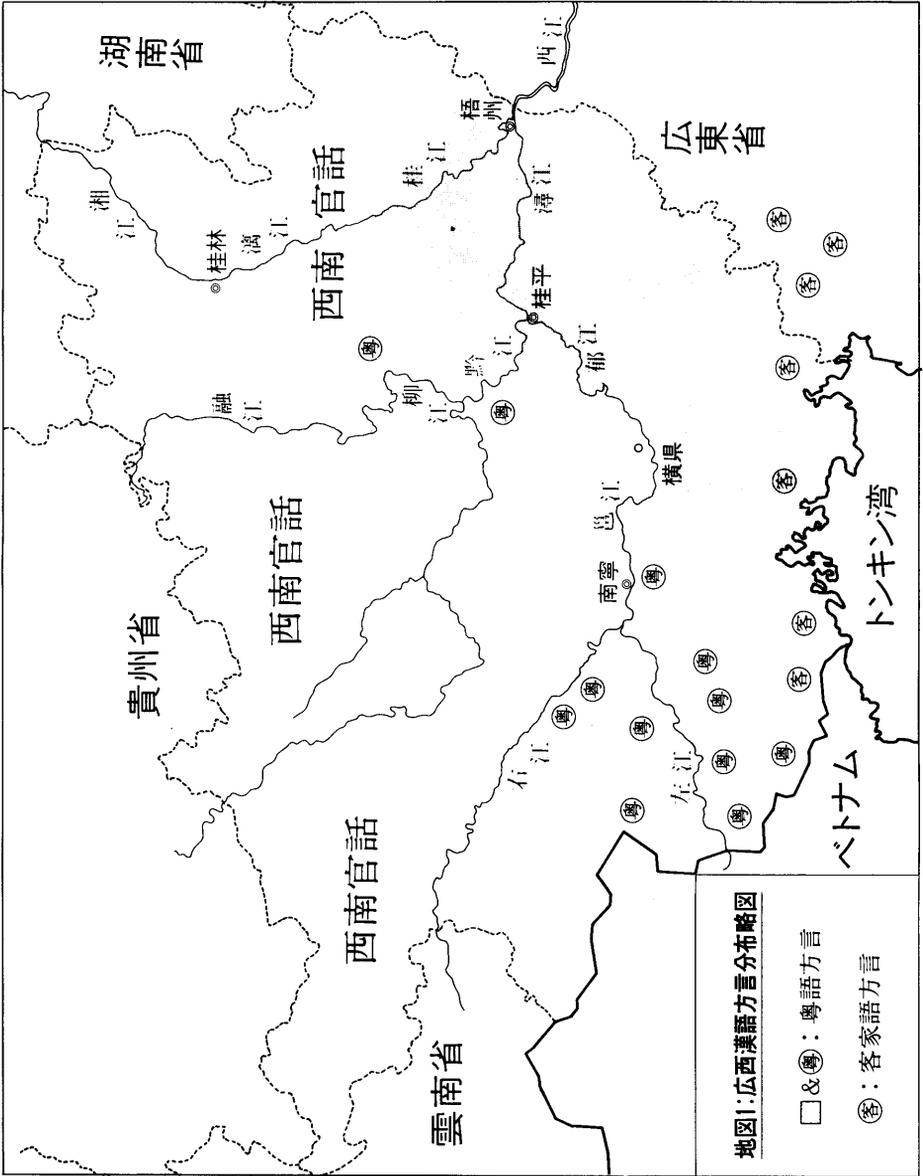
開II	生	ʃɛ:ŋ	52	百	pɛ:k	4
開III	鏡	kəɛ:ŋ	55	惜	θəɛ:k	4
	輕	həɛ:ŋ	52	尺	tʃhəɛ:k	4
開IV	聽	thəɛ:ŋ	44	笛	təɛ:k	4
合II	橫	ũɛ:ŋ	21			
合III	榮	ũəɛ:ŋ	21	永	ũəɛ:ŋ	24

2.2.16 通 攝

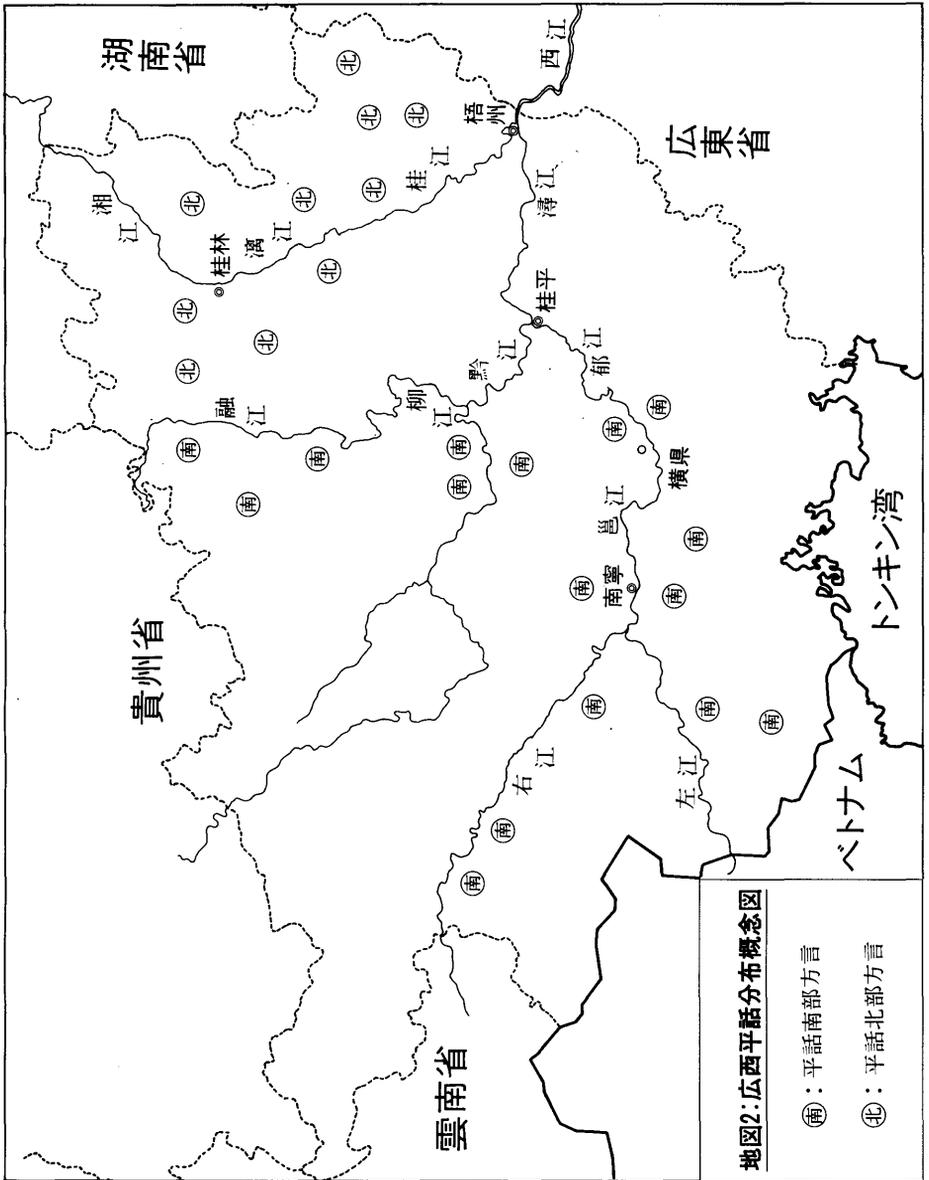
合 I	東	tɔ:ŋ	52	讀	tɔ:k	2
	籠	lɔ:ŋ	21	屋	ɔ:k	4
合III	從	tʃɔ:ŋ	21	竹	tʃɔ:k	4
	風	ɸɔ:ŋ	52	肉	ŋɛ ɔ:k	24

参考文献

- 李荣, 熊正輝主編 1987「广西壮族自治區的漢語方言」『中国語言地圖集』(中国社会科学院和澳大利亞人文科學院合編), 香港: 朗文。
- 李 未 1987「广西靈川平話的特点」『方言』1987. 4. 251-254, 北京: 中国社会科学出版社。
- 辻 伸久 1980『广西粵語比較音韻論』, 東京: 風間書房。
- 張 均如 1982「广西中南部地區壯族中的老借詞源于漢語古“平話”考」『語言研究』1982. 1. 197-219, 武漢: 華中理工大学出版社。
- …… 1987「广西平話中的壯語借詞」『語言研究』1987. 1. 241-250。
- …… 1987「記南寧心墟平話」『方言』1987. 4. 241-250。



..... 1987 「廣西平話中的壯語借詞」『語言研究』1987. 1. 241-250.



地図2: 広西平話分布概念図

○南：平話南部方言

○北：平話北部方言

..... 1987「記南寧心墟平話」『方言』1987. 4. 241-250.